

【第三種郵便物認可】

広島県内23市町で人口が最少、65歳以上の比率が47%強と最も高い安芸太田町。逆風ばかりに見えるが、農家に泊まる「民泊」の修学旅行生が2年で約6倍になり、道の駅の売り上げが2割増えるなど観光客誘致に成果を上げている。この立役者が同町観光協会事務局長の吉田秀政だ。

益田市など連携

安芸太田町に店舗を持つ「スーパードレスタ(広島市)が6月発売した漬物焼きそば」が好調な売れ行きを見せている。漬物を焼いて食べる町の習慣を基にフレスタと共同開発したのは、Iターンで安芸太田に来た観光協会の若手職員だ。

「よそ者」率い町おこし

縦横夢 中国地方キーパーソン



吉田さんはUターン組を率いて町を盛り上げる

安芸太田町観光協会事務局長 吉田 秀政氏

よしだ・ひでまさ 1972年秋田県八竜町(現三種町)生まれ。高崎経済大を卒業し、旅行会社に入社。11年5月から現職。

職員8人のうち、7人リターン組で準備がUターン組。観光アプリを受賞した菓子「チヨコちゃん」を土産物と益田市など周辺自治体に

して安定供給できる体制を整えたのもメーカー出身の若手だ。観光振興だけでなく商品開発まで手掛ける異色の観光協会の「よそ者」を率いて、吉田は次々と施策を打つ。今月28日から山口県で開催される「世界スカウトジャンボリー」に参加するオランダ人215人が26、27日に安芸太田町を訪れ農家に泊まる。町内だけで受け入れ可能だが、吉田はあえて島根県益田市など周辺自治体に

民泊や菓子開発 施策次々

協力を依頼した。民泊は修学旅行生の利用も多く、ある程度の受け入れ規模が必要だが、安芸太田町では今後、少子高齢化を受け入れる農家が減る。「目先の利益を追わず」広域連携で民泊の持続可能性を高める。吉田の生まれは秋田旅行会社に就職し東北地方を中心に過疎地の観光振興や地域特産品の売り込みなどを手掛けてきた。「40歳までに自分のやりたい仕事をしたい」と会社を辞め転職サイトに登録したところ一通のメールが届いた。「安芸太田町で公募している観光協会事務局長に応募してください」。県庁から町に出向していた熱いメールに心打たれ、応募を決めた。東北に恩返しと言われた。単なる観光振興ではなく地域そのものの活性化が必要。外部から人材を集め、民泊やチヨコちゃんなど成功体験を積み重ねた。民泊で同町に来た沖繩の修学旅行生を自腹で訪ね交流を重ねる農家も出てきた。自ら動くまでになった。吉田は町民の変化に満足げな表情を浮かべる。吉田の任期は今年度いっぱい。その後は安芸太田での経験を他の地域に生かすつもりだ。町民の考えは変わり、人材も育っている。他の地域との連携も生まれつつある。自分がいなくなっても安芸太田町は力強く前に進んでいくと信じている。敬称略 (広島支局 篤田聡志)

広島支局 082-242-1131 33455 福山支局 0842-9324-1131 33455

広島県の西北部、中国山地の最西端にある安芸太田町が外国人観光客の誘致に力を入れている。9月中旬、安芸太田町を1泊2日で訪れた米国の弁護士夫妻の感想に、同町観光協会が外国人観光客の誘致を担当する池野利孝さんは頭をほころばせた。

「伝統芸能や工芸品の制作など「体験型」のプログラムは3、4週間て日

イキイキ地域

ラムを用意し、通常のバスツアー旅行に飽き足らない層を呼ぶ。人口減と高齢化に歯止めがかからない町の活性化につながる。伝統芸能の神楽の練習風景を見学し、伝統工芸の本じやくしの制作や稲刈りなどを体験した。10、

広島県安芸太田町



9月中旬、安芸太田町を訪れた米国の弁護士夫妻は神楽の衣装を着るなど体験型の旅行を楽しんだ。

欧米富裕客、神楽を体験

9月中旬、安芸太田町を訪れた米国の弁護士夫妻は神楽の衣装を着るなど体験型の旅行を楽しんだ。年齢化率も広島県で一番。飲食を伴った宿泊の割合が約9割で大規模な工場などを誘致するのは難しく、農地も狭い。観光でも他の地域と同じアジア人をターゲットにし、同じような施策を打つても効果は見込みにくい。

同町には三段峡や日本の橋田百瀬の一つ、井仁の榎田などの観光資源は豊富だが、外国人富裕層の誘致は難しい。

11月にも欧米の富裕層の千人弱。人口減少率があるものの、広島市内か国地方で最も高く、65歳以上の高齢者が46%と高い。そのため日帰り客がほとんど。イスを受け観光プログラム

ムを作成。目玉となったのは神楽の練習風景だ。単に神楽を見るだけでなく、神楽の歴史など様々な話を聞きながら練習を体験し、衣装を身につける。同町では農家などへの民泊を勧めた。修学旅行生の誘致にも力を入れている。町の高齢者が若者や外国人とふれあうことで、「心の活性化」につながる。吉田事務局長は、練習は平日の夜に行われるため、観光客の少ない平日の宿泊につながる。冬は雪が降り、町内には2カ所のスキー場もある。それが町の医療費の削減につながるかも今後検証していく計画だ。

池野さんは「町のこと、セカンドハウスを構えたり、投資につ

は2カ所のスキー場もある。それが町の医療費の削減につながるかも今後検証していく計画だ。

冬は雪が降り、町内には2カ所のスキー場もある。それが町の医療費の削減につながるかも今後検証していく計画だ。

池野さんは「町のこと、セカンドハウスを構えたり、投資につ

は2カ所のスキー場もある。それが町の医療費の削減につながるかも今後検証していく計画だ。

冬は雪が降り、町内には2カ所のスキー場もある。それが町の医療費の削減につながるかも今後検証していく計画だ。

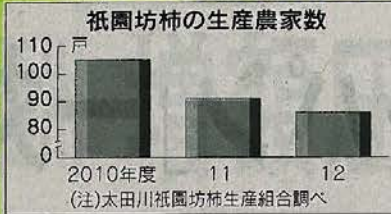
(広島支局 藤田聡志)

2013年(平成25年)11月9日(土曜日)

広島・安芸太田町

祇園坊柿ブランド化

広島県安芸太田町は特産品の祇園坊柿を機能性食品として売り出す取り組みを始める。柿に抗ウイルス効果があることを広島太田学院と研究し、健康面の効用を確認する。柿や、柿を使ったチョコレート菓子のアジアへの輸出も本格化する。同町は過疎化が進んでおり、特産物の加工や流通などを手掛けて付加価値を高める6次産業化で、地域の振興を目指す。



安芸太田町の道の駅でも祇園坊柿を買い求める人が多い



広大大学院と健康効用検証 加工菓子輸出も本格化

抗ウイルスの研究は町と広大大学院の島本整教授(食品衛生学)と共同で研究する。広大大学院は食品産業向け製剤の製造・販売を手掛けるアルタン(東京・大田)と2007年、柿から搾り出した柿渋に、冬の食中毒の要因となっているノロウイルスを撃退できる効果があることを確認。さらに他の12種類のウイルスについても同様の効果があることを発見した。町は共同研究で渋を抜いた生食状態の柿や干し柿、柿の葉などを提供。祇園坊柿が実際にどの状態でも抗ウイルス効果が見込めるかの研究を、近く

開始する。2、3年後をめぐりに機能性のフルーツとして商品化するほか、メーカーと協力して加工品の開発を進める。加工品も2、3年後をめどに、量産体制を整えたいと考えている。

約10年前から地元農家が生産する「チョコちゃん」の輸出にも乗り出す。チョコちゃんとは、干し柿にホワイトチョコを混ぜたドライフルーツで、ワインなどのつまみを想定している。同町はシンガポールやタイの富裕層の需要を見

一般的に柿よりも一回り大きく、果肉が豊かで水分が多く種がほとんど無い。渋柿の渋を抜いて作るため甘過ぎずさっぱりした味わい。贈答用としても販売されている。

込み、現地のレストランやホテルへの輸出を年内にも本格化する。菓子などの加工品の知名度を高めることで、将来的には祇園坊柿そのものの輸出にもつなげたい考えだ。

車いす乗降可能 軽自動車を発売

マツダ

マツダは8日、軽自動車「フレアワゴン」をベースにしたスロープ式の車いす移動車を発売した。ゆったりとした車いすのスペースとスムーズな乗り降りを表現した。減速エネルギー回生技術を採用することなどで燃費性能も向上させた。月20台の販売を目指す。スズキの軽自動車「スペース」をOEM(相手先ブランド)による生産)で調達した。後部座席を折りたたみ式にしたことで、4人乗車時でもベース車同等の後席スペースを確保した。

広島銀純利益 25億円上方修正

今期、不良債権減
広島銀行は8日、2014年3月期の連結純利益が前期比17%増の204億円になりそうだと言った。従来予想を25億

するほか、町内の菓子会を促し、町を挙げて祇園社にもチョコちゃんなど、坊柿のブランド化に取り組みでいく考えだ。

雪かき体験 KO

広島県の安芸太田町は昨年12月、安田女子大は1人2500円。地元が生き生きとする効果も実施した「雪かき体験 KO」（あがりがー）や、11年夏の「三ワイワイガヤガヤの意味」にカネが落ちるだけではない。狙った。若者との交流で住民 昨年2月と今年1月に 段峡滝つば清掃ツアー」 という乙女たち)のうち

秀政氏だ。2011年5 交流の目玉にする「困り月の就任以来、奇抜な観 ごと解決プロジェクト」 光振興策を次々打ち出し の一例である。 34人の女子大生が参加 してきた。「人口減時代の 感に燃え、東奔西走の日 民と交流しながら、数十 年後の日本を先取りした 少子高齢化社会を体験 防ぎます」。同観光協会 した。旅行代金兼授業料

公募人材、過疎地に刺激

広島県安芸太田町



2月に雪の簡易住宅作りを競う「第1回世界イグルー選手権」を開催

も同様。前者では日本最 生保育園児も登場する。 南端の豪雪地帯であるこ ともPRした。吉田氏は 無報酬のAKO出演に によるテレビCM効果は2 がある。「マイナス」が したという。地元タク 実はい「宝物」だったと、 シー運転手は「以前は広 町民の皆さんに気づいて 島市などで乗せた客に町 ほかかった」と話す。 のことを話すと「それ、 町全体を巻き込むのも どこと?」という反応が多 吉田流。昨年11月には町 民らが歌って踊りながら とがある」という人が多 観光名所を紹介するPR い」と話す。 動画を作った。町役場の 今年2月3日には町内 女性職員72人全員で結成 のスキー場で「第1回世 務理事に116人の中か 開から目が見張せない。 した「AKB」ならぬ「A 界イグルー選手権」を開

22人が出 居。国内外から約300 過。地域振興の使命感が 演。小坂眞 人がチームで参加してイ 治町長や地 グルー作りの速さや芸術 性を競った。各種メデ ィアを取り上げ、広告換算 で約2100万円の効果 があったという。 吉田氏は「スキーやス ノーボードだけでは集客 に限界がある。パイを膨 点を受け入れた町も素晴 らしい」と言う。 周囲の目を見張させた 吉田氏は秋田県出身の 吉田氏だが「11、12年は 40歳。大手旅行会社で東 霧開気づくりの段階。今 北や関東の支店に勤務し 年から一気に入アを上げ た後、安芸太田町観光協 会が全国から公募した常 務理事に116人の中か 開から目が見張せない。 した「AKB」ならぬ「A 界イグルー選手権」を開

（広島支局長 塩田宏之）

【第三種郵便物認可】

「困りごと」テーマ、広島へ誘客



よしだ・ひでまさ 1972年(昭47年)秋田県三種町生まれ。高崎経済大卒。大手旅行会社で勤務。安芸太田観光協会が公募した応募者116人の中から、昨年5月就任。

観交人

「うまへいへはすなご」
「1人も来ないだろう」。
今年2月、雪かき体験ツアーを企画した時、町内から冷やかな声が上がった。だが安芸太田町観光協会・常務理事の吉田

安芸太田町観光協会・常務理事

吉田 秀政さん

雪かきや清掃体験ツアー

秀政さん(40)は「しめた」と思った。
広島県北西部にある同町は日本最南端の豪雪地帯。前評判を覆し、40人の定員は広島市などからの応募で締め切り前に埋まった。参加者からは「役

に立ててよかった」「雪がこんなに大変なもの」といった感想が漏れた。吉田さんは「雪ですら観光の手段になる、と町民の意識が変わった」と振り返る。

昨夏には特別名勝の三段峡で、ゴムボートに乗って流木などを片づける清掃体験ツアーを実施した。町民の「困りごと」が集客の目玉で、欧州のボランタリー・ツアーがヒントだ。大手旅行会社にも勤めていた時も過疎地の観光振興を手掛けてい

だが、企業では限界があると感じ退職。昨年5月、同協会が公募した常務理事に就任した。
安芸太田町は人口が約7400人と県内で最少で、人口減少率は1位、高齢化率は2位。しかし過疎化が進んでいるほど、やりがいを感じた。来年からは修学旅行の誘致を本格化する。「民泊」(民家に宿泊)が特徴で、草取りや生け垣の補修などの「困りごと」解決を想定。高齢者をインストラクターにして使命感や責任感で元気になっ

てもらおうという狙いも込めている。(広島)

仕掛ける

人口約7400人。広島県で最少の安芸太田町が、矢継ぎ早に観光の新企画を打ち出している。今年2月に雪かき体験ツアーで広島市などから参加者を集めたほか、10月にはNTTドコモと共同で特別名勝・三段峡のPRに乗り出した。都市や企業などの接点をつくり、地域振興につなげる狙いだ。安芸太田町観光

安芸太田町観光協会常務理事

吉田秀政さん



1972年、大分県生まれ。40歳。高崎大学経済学部卒業。大手旅行会社勤務。2011年3月に退社。同年5月、安芸太田町観光協会に就任。任期は3年。

広島最少人口の町で観光企画

協会常務理事の吉田秀政さんに聞いた。
——ドコモと組んだ経緯を教えてください。
「結果、9月14日にドコモのサービスエリアになった。そこでエリア拡大の告知と観光案内を兼ねたチラシを2万枚つくり、県内のドコモショップや道の駅などに掲示した。費用はドコモと当協会が折半した」

都市・企業と接点生む

「三段峡はこれまで携帯電話が通じず、緊急時の連絡手段に不安を抱えていた。野趣に富むのが三段峡の魅力だが、半面、落石や熊の危険もある。町が携帯各社に働きかけ



「三段峡もみじまつり」では、峡内クイズラリーも開催

民が撮影した写真とコメントを載せるもので、携帯が利用可能になったから、写真を送れるようになった」

——企業と連携する意義は何ですか。

「人口も予算も限られていながら、相手にもメリットをもたらす形で力を借りる必要がある。広島銀行にも助けてもらった。当町の与一野地区に観光バスが来るほど見事な枝垂れ桜がある。保全の予算がないので、桜の写真を印刷した絵はがきを5枚1セット500円で売り出し、うち200円を保全に充てた。今春100枚売れて20万円を確保できたが、約8割は広島銀行

の各支店で行員に買ってもらい、感謝状を出した」
——「困りごと解決プロジェクト」と称して、都市部からの誘客策も展開していますね。
「昨夏に三段峡で流木などを片づける清掃体験ツアーを企画した。今年2月には日本最南端の豪雪地帯である松原地区で雪かき体験ツアーを実施し、広島市などから40人を集めた。観光とボランティア活動を組み合わせた企画だ」
「8月には民家での宿泊を学生に体験させる『民泊』を試験的に始めた。広島県内の中学校の校長の了解を得て、希望者を募った。来年秋には神奈川県の高校生、再来年の春には大阪府の中学生を招く予定だ」

共同でエリア拡大を記念したイベントを開催した。QRコードを活用したクイズラリーだ。さらに当協会ではホームページで11月1日にリアルタイム紅葉情報『00時売れて20万円を確保できたが、約8割は広島銀行の中学生を招く予定だ』(聞き手は)

広島支局長 塩田宏之